

課題番号 : 27指1
研究課題名 : 新しい国連開発目標に寄与する学校保健の戦略策定に関する研究
主任研究者名 : 溝上 哲也
分担研究者名 : 神馬征峰、朝倉隆、西尾彰泰、小林潤

キーワード : 学校保健、生活習慣病、SDGs

研究成果 :

新しい国連開発目標 SDGs: Sustainability Development Goals に寄与できる学校保健の戦略を提示し、開発途上国の政策策定に還元されることを研究目的として開始された。2015年に設定された SDGs は地球の持続的開発: Sustainability Development の視点が盛り込まれ、特に環境分野の開発目標に重点が置かれ、地球の持続的開発には、心身健康な創造的人間開発は不可欠であり、そのための教育を女性・少数民族・障害者等の全ての人に均等に行き届かせる必要があると教育セクターで討議がされている。研究班では橋本イニシアチブによる学校保健の世界的普及事業と国際医療開発費での研究を基盤に作り上げられた国際学校保健コンソーシウム (JCSHR) のもつ国際ネットワークを利用して、研究の実施と研究結果の各国の政策や世界戦略策定への還元を狙っている。

初年度は WHO と連携し、バンコクにて WHO 学校保健テクニカル会議開催を 11 月に実施するにいった。このなかで当研究班がタイ、ラオス等で実施したケーススタディーのエビデンスを基に示してきた政策実施を促進する要因をもとにプレゼンテーションを行った。これをシーズに専門家会議が開催され、低中所得国各国が学校保健を取り組むべきことが確認された。また SDGs と関連づけて、学校保健の役割は災害対策や環境教育に寄与すべきであることも国際学校保健コンソーシウムと協調し東南アジアで人材育成・政策提言を行ってきた SEAMEO (東南アジア教育大臣機構) によって提言された。これらの提言の根拠としては、朝倉班によって進められているエコヘルス教育と小林班によって行われている災害教育のケーススタディーが参考になっている。これらの国際提言は国際学校保健コンソーシウムが学校保健の世界戦略である FRESH の調整グループに参画し、WHO と国際学校保健ネットワーク、ASEAN との連携を強化するハブとなったことが大きな要因であったと考える。また研究班として取り組んでいる次世代の研究者・実務家養成の一環として上記会議に大学院生をファシリテーター補佐として派遣し、開発途上国における学校保健の課題、必要な研究課題についての認識を促した。

それぞれの班でのフィールド研究も開始された。生活習慣病対策研究として溝上は地域への健康増進活動の効果的・効率的な浸透を図るため、カウンターパートと相談の上、地域活動を行っている学童を含む青少年クラブを媒体にした介入研究に変更した。学童を含む青少年クラブ員を、地域におけるヘルスプロモーション活動の推進役と位置付けた生活習慣予防の介入プログラムを作成した。朝倉班ではエコヘルス教育についてのコンセプトペーパーの出版をもとに、ラオスにおいてエコヘルス教育のテキストを作成し教員養成課程での実践研究を開始している。神馬班ではネパールで発生した大地震の被災地区において、住民主体で発見・普及する Positive Deviance (PD) 手法を用いた、学童を対象とする介入研究の計画をたてている。また、西尾らはタイでケーススタディーを開始するとともに ASEAN 諸国における Inclusive Education に関するレビュー論文を作成した。また小林班はニジェールにおいて、イスラム教育のなかでの健康教育についての研究を開始し、教科書、カリキュラムや関係文書の収集を進めている。また災害対策のなかでの学校保健の重要性をコンセプトペーパーとしてまとめ発表した。さらにフィリピンにおいて災害マネジメントと学校保健政策実施についてのケーススタディーの論文化を進めている。

Subject No. : 27S1
Title : Research for formulating the new strategy of school health to contribute to SDGs
Researchers : Tetsuya Mizoue (Leader) , Masamine Jimba, Takashi Asakura, Akihiro Nishio,
Jun Kobayashi
Key word : School Health, NCD, SDGs

Abstract :

Aim of research is to develop the strategy of the school health to contribute to SDGs (Sustainability Development Goals), and its outcome will be feedback to formulate the policy in each countries. SDGs set in 2015 included in a viewpoint of sustainability Development, and an important point is put in the development target of the field of environment in particular, and the creative human security issues.

WHO school health technical conferencing was held in Bangkok with cooperation among development partners such as JC-GSHR: Japan consortium for global school health research, PCD, Save children fund and WHO in November. JC-GSHR gave presentation based on the evidence which is shown as a promoting factor to implement the policy enforcement. In addition, we recommended to connect to SDGS by contributing the anti-disaster measures and an environmental education. Its new role of the school health was proposed by SEAMEO: Southeast Asian Minister of Education Organization with JC-GSHR. The case study of eco-health education in Lao PDR and disaster management were referred to develop these proposal. JC-GSHR officially participate in the coordination group of school health, and play a role as a hub strengthening the network among WHO and other stakeholders, especially in Asia. We dispatched a graduate students as the assistant of the facilitator and they recognize their research themes, which are recommended by global communities.

The field studies in each group were started. Mizoue modified the contents of intervention that the young people club promote a local action to disseminate the health behavior as a lifestyle-related diseases. The study will be assessed the effectiveness this approach. Asakura made a text of the eco-health education in Laos and start the evaluation study in the teacher training course. The basic idea already published as a concept paper of the eco-health education. Jimba started the observation to discover the approaches and plan of the intervention study using the Positive Deviance (PD) approached in Nepal. Nishio started a case study in Thailand and made a review article about Inclusive Education in the ASEAN countries. Kobayashi started a study on health education in the Islam education in Niger, and pushes forward the collection of textbook, curriculum and documents concerned. He published the concept paper, which shown the importance of the school in anti-disaster measures.

Researchers には、分担研究者を記載する。



World Health Organization



学校保健のシンクタンクによって政策提言へ

政策研究・フィールド研究

エコヘルス教育

ラオス



災害教育

フィリピン

環境

教育

保健



障害者教育

A.S.E.A.N.(タイ)



イスラム教育

ニジェール

NCD対策

スリランカ

JC-GSHRによる政策提言

- 2015年11月 WHOテクニカル会議の開催
- 学校保健研修コース開催
- 新たなネットワーク強化により世界的発信へ
- ISHN (国際学校保健ネットワーク)
- SEMEO-TROPMED
- WHO



課題番号 : 27指1
研究課題名 : 生活習慣病対策に資する、コミュニティとの連携を強化した
学校保健モデルの開発と評価
主任研究者名 : 溝上 哲也
分担研究者名 : 溝上 哲也
キーワード : 学校保健、生活習慣病、青少年クラブ、コミュニティ、介入研究
研究成果 :

学校保健は途上国において費用対効果の高い予防戦略であることが感染症分野で実証されている。近年、途上国において生活習慣病による疾病負担が増大しており、学校における活動に留まらず、ヘルスプロモーション活動を地域レベルで普及するモデルの開発が期待されている。本研究の目的は、途上国における生活習慣病の予防のため、学童を含む地域の青少年クラブを生活習慣病予防の推進役と位置づけ、青少年クラブ員が地域でのヘルスプロモーションを展開する手法を開発し、その効果を、クラスターランダム化比較試験により疫学的に検証することである。本研究により、生活習慣病予防における地域での保健推進人材が育成され、持続的な予防活動が期待される。また、開発したモデルを国際的枠組みあるいは日本の援助指針にフィードバックすることにより、途上国における生活習慣病予防対策の立案・計画に資することができる。なお、当初計画では、学校をベースにした地域介入を計画していたが、地域への健康増進活動の効果的・効率的な浸透を図るため、カウンターパートと相談の上、地域活動を行っている学童を含む青少年クラブを媒体にした介入研究に変更した。

研究初年度は、カウンターパートであるコロンボ大学およびヘルスプロモーション財団（NGO）ともに、学童を含む青少年クラブ員を、地域におけるヘルスプロモーション活動の推進役と位置付けた生活習慣病予防の介入プログラムの構想を練った。学校における豊富な実地経験に基づいて青少年クラブ員に対する研修プログラムを検討した結果、ヘルスプロモーションに関する基礎知識のほか、家族レベルでの行動変容を促す手法および地域への普及を促す諸活動を主な内容と定めた。

この青少年クラブ員による介入プログラムを疫学的に評価するため、地域ベースのクラスターランダム比較試験を計画した。研究計画書および調査説明書・調査票・同意書を作成し、コロンボ大学及び当センターの倫理委員会に諮り、承認を得た。研究内容は以下のとおりである。介入に先立ち、介入地区と対照地区の住民を対象にベースライン調査を実施し、食事・運動などの保健行動と身長・体重・血圧を測定する。次いで、介入地区において青少年クラブ員による予防的介入プログラムを実施する。介入1年後、ベースライン調査に参加した住民を対象に、介入地区と対照地区とで追跡調査を行い、保健行動を把握し、身体計測を実施する。介入前後の変化を両群で比較し、その差を統計学的に検定する。主なエンドポイントは血圧と肥満度、副次的なエンドポイントは運動や食事などの生活習慣とする。量的な評価とともに、活動事例集を作成し、それらを方法論、保健、環境、経済といったキーワードで分類する。

介入研究実施に向け、スリランカ西部州において研究対象として適切と考えられる2～3の地区の代表者および青少年クラブに研究内容を説明し、協力を依頼した。また、調査サンプル抽出およびベースライン調査の実施マニュアルの作成に着手した。

課題番号 : 27指1
研究課題名 : 途上国における学校保健政策実施の促進・阻害要因の特定
主任研究者名 : 溝上 哲也
分担研究者名 : 神馬 征峰

キーワード : 学校保健、学校保健政策、ヘルスプロモーション・スクール、東南アジア諸国研究

研究成果 :

● タイにおける研究（分析・執筆）

「タイにおける国家学校保健政策実践の影響要因」

国・県・地区レベルの教育省と保健省の政策実施者および小学校教師を対象にしたインタビューとドキュメントレビューを実施し、結果を質的に分析した。ラオスにおける研究結果と同様に、政策実施者間の学校保健のコンセプトの共通理解の必要性、政策実践を既存のシステムに組み込む必要性など11の政策実践影響要因が特定された。タイ特有の要因として、小学校間の交流を促進させるクラスターシステムが政策実践に良い影響を与えていることが分かった。現在、国際医学誌への投稿を目的として論文を執筆中である。

● ネパールにおける研究（計画・実施・分析・執筆）

「ネパールにおける国家学校保健政策実践の影響要因」

国・ドナー・地区・コミュニティ・学校の5つのレベルでインタビュー及び文献レビューを実施し、学校保健政策の実施プロセスおよび今後の持続可能性を質的に分析している。分析終了後、論文としてまとめ国際医学誌に投稿予定である。

「ネパールの学童における学校保健政策実施の効果」

ネパールの小学生を対象にしたアンケートおよび手洗いのスポットチェックを実施し、共分散構造分析にて、学校保健政策実施の効果进行分析した。学校保健プログラムの実施が生徒の健康状態、特に寄生虫駆除に対して有効である事、地域や学校の中で学校保健活動の内容や頻度にばらつきがあることが示された。また、生徒の健康状態に強く影響する上水道、トイレなどの設備普及の重要性も示された。本研究結果は論文としてまとめられ、現在、国際医学誌に投稿中である。

「ネパール地震の被災地において教師による心理社会的サポートが学童へのメンタルヘルス・レジリエンスに及ぼす効果」

2015年4月にネパールで発生した大地震の被災地区において、①被災地における学童のメンタルヘルス・レジリエンスの状況とその要因、②学童のメンタルヘルスの問題とレジリエンスの決定要因、および③教師による心理社会的サポートが学童のメンタルヘルス・レジリエンスに与える有効性を検証する。現在までに、東京大学の倫理委員会で承認を得て、現地調査にて研究対象地と介入内容の検討を行った。本年度は、引き続きデータ収集および介入を実施していく予定である。

● カンボジアにおける研究（論文出版）

「カンボジアにおける孤児および弱い立場にある子どもの抑うつ症状の関連因子」

孤児及び弱い立場にある子どもたちにおいて、身体的な健康状態や暴力が孤児の抑うつ状態に影響を及ぼす事を示した。食料不足、年齢、両親の離別もしくは死別も抑うつ状態の大きな要因であった。これらの要因は男児よりも女児で大きく影響を及ぼしていた。

Ong KI, Yi S, Tuot S, Chhoun P, Shibamura A, Yasuoka J, Jimba M. What are the factors associated with depressive symptoms among orphans and vulnerable children in Cambodia? BMC Psychiatry 2015. 15:178

（論文掲載情報詳細は研究発表及び特許取得状況報告書（本研究）参照のこと）

課題番号 : 27指1
研究課題名 : ラオスにおけるエコヘルス教育の理論形成と実践的教材開発
主任研究者名 : 溝上 哲也
分担研究者名 : 朝倉隆司
キーワード : エコヘルス教育、持続可能な開発、教員養成、ラオス
研究成果 :

1. 研究目的

2015年度は、エコヘルスとエコヘルス教育の理論的基盤を構築し、ラオスの教員養成校でエコヘルス教育を導入するためのテキスト（理論編）の作成を目的とした。さらに、ラオス国立大学教育学部といくつかの教員養成大学において作成したテキストを用いて授業実践を行い、形式的な評価を試みることを目的とした。

2. 研究方法

1) エコヘルス教育のテキスト（理論編）の作成

ラオス国立大学教育学部の理科教育コースの教員8名と、日本において環境教育や健康教育等を専門とする研究者及び小児科医らの協働により、理論編のテキストを作成した。

2) 教員養成校における寄生虫予防教育教材の開発

ラオスのサワンナケート県の教育分野及び保健分野の行政・研究機関と連携して、同県の教員養成校の学生（約500名）を対象に、寄生虫罹患に関わる検査（検便）を実施し、採取した便から得られた寄生虫卵等を用いて、寄生虫予防教育のための教材を開発した。

3) 作成したエコヘルステキスト（寄生虫予防教育の部分）を用いた教員養成校での実証研究

ラオス国立大学の教育学部と協力し、サワンナケート県の教員養成校において、開発した教材を用いた教員研修を行い、その効果の評価を行った。具体的には、学生約500名を対象に、開発したエコヘルステキスト（理論編）及び寄生虫予防教育教材を使用した授業を実践した。授業の前後において自記式の質問紙に学生が回答し、その効果を評価した。

3. 研究の成果：ラオスでのエコヘルス教育に関する県の教員養成校での実証研究

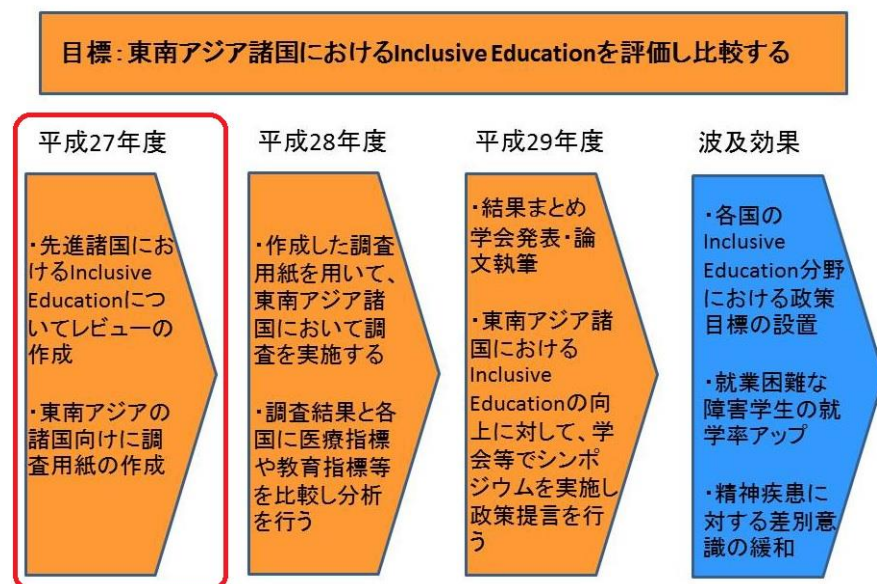
寄生虫予防に関する授業実践の結果、ラオスで感染者の多い寄生虫症やその感染が引き起こされるメカニズム、住環境の衛生状況の整備の必要性、そして、感染によってもたらされる子どもの健康影響に関して、受講した学生は理解することができた。現在、授業前後に得たデータの詳細な分析を実施している。また、2015年12月に行われたアジア学校保健研修においては、次世代の国際的な開発戦略の一つとして、ラオスの研究で得られた成果を基盤とした「エコヘルス教育」を提案し、他のアジア地域の省庁関係者からも高い関心を得た。さらに、WHOの主催により、バンコクで行われた学校保健専門家会議において、本研究の成果を基に、教員養成機関における学校保健人材の養成の必要性について報告、提案した。

4. 今後の課題

今後は、これまでのエコヘルス教育のモデルカリキュラムの実践で得られた成果と課題を集約し、2016年からのラオス公教育におけるエコヘルスの正式導入に向けて、教科書の内容や指導法を修正していく必要がある。

課題番号 : 27指1
研究課題名 : 東南アジアにおける学校メンタルヘルスと Inclusive Educationの現状調査
主任研究者名 : 溝上 哲也
分担研究者名 : 西尾 彰泰

キーワード : インクルーシブエデュケーション(IE)
研究成果 :



上記研究計画に基づき、平成27年度は、ASEAN10カ国におけるIEに関する研究についてリテラチャーレビューを行った。検索エンジンとして、ScienceDirect, SpringerLink, Web of Science, ERIC, Google Scholarを用い、*integration, inclusion, special-needs education, special education, disability, ASEAN countries, Brunei, Cambodia, Indonesia, Laos, Malaysia, Myanmar, Philippines, Singapore, Thailand, and Vietnam* をアンド検索して絞り込みを行い、抄録を読んで関連する論文を抽出した。その結果、60本の論文が残った。72%がマレーシア、シンガポール、タイからの論文で、国による大きな偏りが見られた。極端に人口の少ないブルネイを除いて、論文数と、各国の一人あたりのGDPとの相関が見られた。内容としては、政策研究が最も多く、次にIEに対する教員らの態度・知識に関する研究、IEの効果を評価する研究などが続いた。特に、近年、IEの効果を客観的なスケールを使って評価しようという研究が急増していることがわかった。本研究は、論文としてまとめられ、現在、Research in developmental disabilities誌に投稿中である。また、平成27年11月から12月にかけてバンコクで行われたアジア学校保健研修で、報告者は講師を務め、その際に、ASEAN各国の学校保健担当者に対してと、本研究について説明を行い、理解を得た。平成28年度の調査用紙については、レビュー論文を作成する際に、様々な文献を参考にして作成した。

課題番号 : 27指1
研究課題名 : 環境・保健・教育を統合した学校保健戦略策定とネットワーク強化に関する研究
主任研究者名 : 溝上 哲也
分担研究者名 : 小林潤

キーワード : 政策提言、災害、イスラム教育

研究成果 :

初年度はWHOと連携し、バンコクにてWHO学校保健テクニカル会議開催を11月に実施するにいたった。このなかで当研究班がタイ、ラオス等で実施したケーススタディーのエビデンスを基に示してきた政策実施を促進する要因をもとにプレゼンテーションを行った。これをシーズに専門家会議が開催され、低中所得国各国が学校保健を取り組むべきことが確認された。またSDGsと関連づけて、学校保健の役割は災害対策や環境教育に寄与すべきであることも国際学校保健コンソーシウムと協調し東南アジアで人材育成・政策提言を行ってきたSEAMEO(東南アジア教育大臣機構)によって提言された。これらの提言の根拠としては、朝倉班によって進められているエコヘルス教育と小林班によって行われている災害教育のケーススタディーが参考になっている。これらの国際提言は国際学校保健コンソーシウムが学校保健の世界戦略であるFRESHの調整グループに参画し、WHOと国際学校保健ネットワーク、ASEANとの連携を強化するハブとなったことが大きな要因であったと考える。また研究班として取り組んでいる次世代の研究者・実務家養成の一環として上記会議に大学院生をファシリテーター補佐として派遣し、開発途上国における学校保健の課題、必要な研究課題についての認識を促した。コンソーシウムの国際的発信強化のため、初年度は災害対策のコンセプトペーパーの論文作成、ホームページの改定に成果を得た。

分担班のフィールド研究としてニジェールにおいて、イスラム教育のなかでの健康教育についての研究を開始し、教科書、カリキュラムや関係文書の収集を進めている。また災害対策のなかでの学校保健の重要性をコンセプトペーパーとしてまとめ発表した。さらにフィリピンにおいて災害マネジメントと学校保健政策実施についてのケーススタディーの論文文化を進めているとともに、災害後のスポーツの導入による青少年の自尊心の改善による災害慢性期対応の強化のための介入研究を実施している。

研究発表及び特許取得報告について

課題番号： 27指1

研究課題名： 新しい国連開発目標に寄与する学校保健の戦略策定に関する研究

主任研究者名： 溝上哲也

論文発表

タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
The ecosystem approach to health is a promising strategy in international development: lessons from Japan and Laos	Takashi Asakura, Hein Mallee, Sachi Tomokawa, Kazuhiko Moji, et al.	Globalization and Health	11巻3号	2015年2月
Unnecessary Dieting Intention and Behavior among Female Students in Naha City, Japan	Myint K, Nonaka D, Jimba M, Nanishi K, Poudel K, Yasuoka J, Miyagi M, Shinjo M, Kobayashi J	Trop Med Health	43;117-122	2015年6月
What are the factors associated with depressive symptoms among orphans and vulnerable children in Cambodia?	Ong KI, Yi S, Tuot S, Chhoun P, Shibamura A, Yasuoka J, Jimba M.	BMC Psychiatry	15:178	2015年7月
School Health: an essential strategy in promoting community resilience and preparedness for natural disasters	Kenzo Takahashi, Mitsuya Kodama, Ernesto R. Gregorio, Jr, Sachi Tomokawa, Takashi Asakura, et al	Glob Health Action	http://dx.doi.org/10.3402/gha.v8.29106	2015年8月
School-based intervention to enable school children to act as change agents on weight, physical activity, and diet of their mothers: a cluster randomized controlled trial.	Gunawardena N, Kurotani K, Indrawansa S, Nonaka D, Mizoue T, Samarasinghe	Int J Behav Nutr Phys Act	13:45	2016年4月
世界見聞録 健康の輪の広がり ― 子どもから親へ、子どもから地域へ、地域からさらに他の地域へ	黒谷 佳代	月刊 新医療	42巻12号	2015年12月
保健学習の指導力向上のための模擬授業の効果と課題～省察の変容に着目して～	長田光司、友川幸	学校保健研究	58巻1号	2016年4月

学会発表

タイトル	発表者	学会名	場所	年月
ラオスの学校教育における健康診断活動に関する教員研修プログラムの成果と課題－活動の持続性における促進・阻害要因の検討	鳥澤一馬、友川幸、朝倉隆司、國土将平、Ngouay Keosada、門司和彦	日本体育学会甲信支部長野体育学会第50回大会	長野県長野市	2015年1月
ラオスにおけるエコヘルズ教育の実践のための授業力（コンピテンシー）の解明	長田光司、友川幸、渡辺隆一、朝倉隆司、Ngouay Keosada、國土将平、門司和彦、他	日本体育学会甲信支部長野体育学会第50回大会	長野県長野市	2015年1月
開発途上国の青少年が”良い”大人に成長するための条件とは：ラオス・バングラデシュにおける発達資産調査から	朝倉隆司、友川幸	第12回日本健康教育学会	愛知県半田市	2015年3月
保健×教育：ラオスにおける寄生蠕虫コントロールのための共同プロジェクト	サトウ恵、友川幸、朝倉隆司、門司和彦、Ngouay Keosada, Phoumy Douanchanh, Phailath Sythong, Marcello Otake Sato, Tiengkham Pongvongsa, Jitra Waikagul	第84回日本寄生虫学会大会	東京都三鷹市	2015年3月

研究発表及び特許取得報告について

ヒトに感染性を示す鉤虫Ancylostoma属4種のPCRによる分類方法の検討	池田 堇、Marcello Otake Sato、サトウ 恵	第10回日本臨床検査学教育学会学術大会	長野県松本市	2015年8月
Evidence-based school health interventions for NCD prevention in low- and middle- income countries	Masamine Jimba	WHO School Health Technical Meeting “Global Health Initiatives: Achieving Health and Education Outcomes”	タイ、バンコク	2015年11月
Report from WHO technical meeting in 2015	Sachi Tomokawa, Jun Kobayashi	Joint International Tropical Medicine Meeting 2015	タイ、バンコク	2015年12月
Opisthorchis viverrini感染者の糞便を使用した遺伝子検査への検体処理方法の検討	サトウ 恵、Marcello Otake Sato、Tippayarat Yoonuan、Surapol Sanguankiat、Jitra Waikagul、Tiengkham Pongvongsa、門司和彦、狩野繁之	第85回日本寄生虫学会大会	宮崎県宮崎市	2016年3月
環境DNA手法を用いたタイ肝吸虫 Opisthorchis viverriniの環境水中からの検出	橋爪裕宜、サトウ 恵、Sato Otake Marcello、Tippayarat Yoonuan、Surapol Sanguankiat、Tiengkham Pongvongsa、門司和彦、源利文	第85回日本寄生虫学会大会	宮崎県宮崎市	2016年3月
ラオスのタイ肝吸虫症：胆管癌の高リスクグループ発見のための尿検査	伊藤誠、サトウ 恵、Tiengkham Pongvongsa、Tippayarat Yoonuan、Surapol Sanguankiat、Jitra Waikagul、長岡史晃、Sato Otake Marcello、門司和彦	第85回日本寄生虫学会大会	宮崎県宮崎市	2016年3月
Clinical and Molecular confirmation of Echinococcus vogeli in Tocantins State, Brazil, and it's potential risks for travelers	サトウ オオタケ マルセロ、 Coutinho Itagores H. I. L. S.、サトウ 恵、Figueiredo Benta N. S.、Pinheiro Sandra M. B.、千種雄一	第85回日本寄生虫学会大会	宮崎県宮崎市	2016年3月

学術図書等

タイトル	著者	掲載誌	掲載号	年
Biology of Foodborne Parasites, Taenia	Marcello Otake Sato, Caris Maroni Nunes, Megumi Sato, and Jitra Waikagul,	CRC Press	単行本(学術書), Chapter 24, pp.463-480	2015年4月
Foodborne Parasites in the Food Supply Web, Foodborne parasites,	Jitra Waikagul, Megumi Sato and Marcello Otake Sato	Elsevier	単行本(学術書), Chapter 10	2015年4月

その他発表(雑誌、テレビ、ラジオ等)

タイトル	発表者	発表先	場所	年月日
世界の子どもの貧困と健康—貧困が生み出す格差の健康影響とその対策—	友川 幸	公衆衛生		印刷中

特許取得状況について ※出願申請中のものは()記載のこと。

発明名称	登録番号	特許権者(申請者) (共願は全記載)	登録日(申請日)	出願国
なし				